

ラジオDJ/ナレーター サッシャさん(99年独卒)

ドイツ・フランクフルト出身、小学校4年生の時に日本に移住。本学卒業後、音楽専門チャンネルでのVJを経て、J-WAVE「STEP ONE」ナビゲーター、日本テレビ系「金曜ロードショー」ナビゲーター、スポーツチャンネルのJSPORTS、DAZNの実況などを担当。そのほかナレーション、MCなど幅広く活躍している。



各業界でトップランナーとして活躍する先輩に、学生記者がインタビュー。今回は、ラジオDJや映画番組のナビゲーター、スポーツチャンネルでの実況など、マルチに活躍されているサッシャさん。DAZNのF1番組の収録後にお話を伺いました。



また、視聴者の皆さんにとって何が大切かを考え、ラジオの向こうにいる方を思い浮かべて、「独りよがり」にならないよう気を付けています。もちろん、エンターテイメントなので楽しくないといけません。笑いに限らず、聞いてよかった、楽しかったと思ってもらえるように意識しています。そのためにも、日ごろから好きなことなどは積極的に情報収集することが大切です。特に音楽や映画やスポーツなどは、趣味でもあるからこそいつもアンテナを張っています。

◆現在とこれまでのお仕事について、教えてください。

喋ること全般が仕事です。主はラジオDJですが、スポーツ実況、ナレーション、テレビのMCなども。具体的には、日本テレビ系「金曜ロードショー」やJ-WAVEのラジオ番組「STEP ONE」のナビゲーター、スポーツチャンネル、DAZNやJSPORTSで実況などをさせていただいています。

◆お仕事をするうえで、大切にされていることはありますか。

入念に準備をしておくことです。ラジオ番組ではゲストの方の曲を聞いたり、情報を仕入れたりすることで、自信を持って臨めるようにしています。

◆今のお仕事を選ばれたきっかけについて教えてください。

元々、大学卒業後は出身地であるドイツの大学に進学するつもりでした。向こうで経営学を学んで、日本との橋渡しができる仕事に就きたかったのです。しかしドイツで大学に行くには、当時、小学校から13年間の教育を受ける必要があったので、12年制である日本の高校を卒業しても大学には進めませんでした。そこで、ドイツの大学への学士入学に備える意味でも、改めてきちんとドイツ語を学ぼうと獨協大学に入学したのです。

当時就職は考えていませんでしたが、学年が上がって就職活動が始まり、就職課(当時)に足を運ぶ友人たちをみるうちに「今の自分ならどんな仕事を選ぶだろうか」と考えるようになりました。そこで浮かんだのが、自分の言葉で何かを伝える

「喋る仕事」だったので。私の場合、求人に応募して採用してもらって、いわゆる「就職活動」だけが就職活動ではないと感じていました。自分から探してつかむ仕事で、当時から性に合っていると感じていたことも大きかったです。

そこでラジオ局へ問い合わせたり、オーディションを受けたりしました。最終的には、当時の音楽専門チャンネルでデビューしましたが、2年後にそのチャンネルが終了。今度こそドイツの大学へと思いましたが、J-WAVEから声をかけていただき、仕事を続けて今に至っています。結局ドイツの大学への学士入学は20年以上ベンディングですね(笑)。

◆学生時代にやっておいたほうが良いことはありますか。

大学生の時期こそ、見聞や視野を広げるために自己投資をした方が良いと思います。これは私自身の反省なのですが、当時は時間の使い方も下手でしたし、バイトで稼いだお金も使わずに貯金してあるタイプでした。趣味や旅行など、大人になればできると思っていません。

しかし、社会人になれば忙しくなり、家族を持てば自分のために使える時間やお金は本当に限られます。学生のうちは、時間もお金も何気ないことではなく、自分を高めることに使うべきです。仕事に直接かかわらなくても、何かにつながるはず…と、当時の自分に伝えたいですね。

メッセージ 学生の皆さんへ

- ① 就活だけが道ではない、違和感があるなら別の生き方を探すのも方法の一つ。
- ② 学生のうちこそ時間とお金を惜しまず、未来への自己投資と挑戦につき込もう。

学生記者

(法律学科4年)

学生時代には、積極的に自己投資した方が良いというお話が印象に残りました。残りわずかな学生生活ではありますが、悔いを残さないように今しかできないことに挑戦していきたいと思いました。

(英語学科1年)

同じ大学で学んでいたことを実感でき、とても充実した時間でした。お話を聞いて、学生の間に様々なことを体験してみようと思いました。